

アライグマによる農作物被害 (農業被害アンケートの調査等により)

○石塚譲、幸田良介（環境研究部）

1. 背景と目的

特定外来生物に指定されているアライグマは、大阪府においても急激に増加しており、それとともに農作物の被害も増加している。被害対策のために府では「アライグマ防除実施計画」を策定している。この計画の遂行のためには、継続したアライグマのモニタリングが必要であることから、捕獲や農業被害状況データの解析を実施した。

2. 事業の内容／調査方法と結果概要

(1) 分布域の変化

アライグマ捕獲場所を3次メッシュ（約1km²）ごとに集計し、捕獲メッシュ数の変動と、新規捕獲メッシュの拡大状況を地図化した。

アライグマの捕獲があったメッシュ数は大きく増加しており、R03年度はR02年度よりやや減少したものの、過去最大水準が継続していた。

各メッシュで初めて捕獲された時期の分布状況を見ると、初期の分布域は北部や泉州、南河内が中心であり、H22年度頃から中部地域でも分布が拡大し、H27年度頃からは大阪市周辺の都市部を中心に分布拡大が進行していたことが明らかとなった。R02年度以降は都市部周辺への分布拡大傾向がやや鈍化している一方で、府内全域の中でこれまで分布のなかった隙間を埋めるようなかたちで分布拡大が継続していることが示唆された。

(2) 農業被害強度の分布と変化

アンケートデータからの農業被害強度を被害なし：0、ほとんどない：1、軽微：2、大きい：3、深刻：4にあてはめ、農業被害強度の地域毎の推移と被害強度の分布状況の空間補間図を作成した(図2)。農業被害強度は地域毎に異なっていた。中部地域では、H22年頃に分布拡大が起こっていたが、農業被害強度についてもその頃に強度が増加していた。

3. 今後の方向性

継続的な調査から生息状況や被害状況の経年変化を明らかにするとともに、ワナ捕獲時のデータが充実している市町村を中心に、生息密度と被害強度の関係解析を進める。

業績

- (1) 石塚譲・幸田良介・松本崇（2021）．大阪府における誘引餌に対するアライグマの行動の秋期から冬期における季節的・時間的変動．地域自然史と保全，43（1），45-52.
- (2) 幸田良介（2016）．大阪府における外来哺乳類，アライグマ，ヌートリア，ハクビシンの分布拡大状況-農業被害アンケートによるモニタリング．地域自然史と保全，38（1），29-40.